

# 第30回国頭地区中学校1年生野球大会要項

1. 主催： 国頭地区中学校体育連盟野球専門部
2. 期 日： 令和5年12月9日（土）～令和6年1月6日（土）予選（当該校で計画・実施）  
令和6年1月7日（日）準決勝、決勝 9時試合開始
3. 会 場： 12月9日（土）～ 名護中学校他  
1月7日（日）名護中学校 予備日：8日（月）
4. 参加資格： (1) 国頭地区中体連加盟校であること。  
(2) 出場チームは1校1チームを原則とするが、2チーム編成できる学校はその限りではない。  
また、単独校でチーム編成不可能な場合は、他競技の部員を含めたり、近隣校合同チームによる参加も可とする。（合同チームでの参加の場合は両校の公印が押印された申込書を提出すること。）  
(3) 1チームの登録選手は1年生部員、監督1名、コーチ2名（外部コーチ1名）、記録員1名とする。  
(4) 参加校の引率、監督は当該校の教職員とする。但し、教職員以外のコーチ（1名）については学校長の認めた登録されたコーチでなければならない。  
(5) 参加にあたっては、各学校の服装・容儀規定を遵守し、基本的には各学校において指導を行う。
5. 競技規則： 2023年度公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則並びに本大会規定に準ずる。  
【競技に関する連盟特別規則 一七、少年部・学童部に関する事項】の適用
6. 大会規定： (1) 競技形式
  - ① 試合方法は出場チーム数を考慮し決定する。（準決勝・決勝はトーナメント方式）
  - ② 試合は7回戦とする。但し、3回以降10点差、5回以降7点差以上の場合はコールドゲームとする。（決勝戦においても同様とする）
  - ③ 予選リーグにおいて7回を終了して同点の場合は、同点のまま終了する。但し準決勝において、7回を終了して同点の場合は、8回からタイブレーク方式を行い、勝敗を決定する。決勝戦においては、7回を終了して同点の場合、両校優勝とする。
  - ④ 同日に1チーム3試合は行わない。
  - ⑤ 予選リーグにおいて勝率が同率となった場合は、抽選によって準決勝進出を決める。
  - ⑥ 日没、降雨についてのコールドゲームは5回以降とする。それ以前の場合は継続試合（サスペンデッドゲーム）を適用する。(2) 試合時間
  - ① 試合は1時間30分と計算し、1時間前までには球場に到着していること。(3) オーダー交換
  - ① オーダー用紙は各チームで準備し提出する。
  - ② 攻守の決定は前の試合の4回終了時（第1試合は試合開始30分前）に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。(4) 用具
  - ① バットリング、トレーニングバット、リストバンド等の使用を禁止する。但し、マスコットバットは認めるが、ネクストバッターズサークルへの持ち込みは1本のみとする。
  - ② 手袋・リストガードは、原則として「白」か「黒」色の高校野球対応のものを使用する。
  - ③ ストッキングの形をしっかりと統一する。
  - ④ 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
  - ⑤ 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)入りの捕手用ヘルメット、マスク、スロートガード、レガース、プロテクター、ファウルカップを使用すること。（投球練習時の控え捕手も同様）また、打者、走者、次打者、ベースコーチ、バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側のイヤーフラップ（内側にスポンジ等）のついたヘルメットを使用すること。(5) タイムアウト
  - ① 監督が投手の所へ行く回数の制限  
監督が、1試合に投手の所へ行ける回数は7イニングで3回以内とする。尚、特別延長戦においては、2イニングに1回行くことができる。  
監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。尚、その交代した投手が他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。

② 守備側と攻撃側のタイムの回数制限

捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は7イニングで3回以内とする。尚、特別延長戦となった場合は、2イニングに1回行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。

野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1度として数える。逆の場合も同様とする。

(6) ダッグアウト

① 抽選番号の若いチームを一塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。

② ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止する。

③ ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。（ベンチ内1個とする。）

(7) その他

① チームの選手（監督・コーチ含む）は同色、同形のユニフォームを着用する。（合同チームに関してはその限りではない。）尚、スパイクも同色とする。（監督・コーチのシューズも同様）  
コーチ（教職員）の服装は平

服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。

② 背番号は1から使用し、原則としてポジション順とする。

③ 原則として球場内でのグラウンドコートの着用はチームの統一されたものを着用すること。

④ アピールは当事者か主将、監督に限る。

⑤ 試合中に起きた事故については応急処置のみとし、その後は各学校で責任を持って処置する。

7. 試合球：全日本軟式野球公認B号を使用する。尚、各チームから試合球3個とロージン1個を持ち寄りとする。

8. 表彰：（1）優勝チーム、準優勝チームには賞状を授与する。（団体表彰のみ）

（2）3位のチームには賞状を授与する。（団体表彰のみ）

9. 申し込み：令和5年12月9日（土）～ 予選リーグ時に各会場校の監督に提出。

10. 監督会：令和5年12月2日（土） 地区新人大会決勝戦終了後

11. その他：（1）雨天の場合は、午前7時30分までに専門部で状況を判断し、各監督へ連絡する。  
※予備日は設けない。

（2）試合後のグラウンド整備及び次の試合の補助員は、両チームで責任をもって行う。

（3）試合の審判は各学校で帯同審判員を2名出すこと。（予選リーグのみ）

（4）球場内外の清掃は各チームで時間をかけて行う。

（5）ゴミの処理は各学校で責任をもって行う。（ゴミは確実に持ち帰る。）

※会場のゴミ箱は使用しないこと。

（6）1年生が少ない学校においては、バットボーイやイニング間の投球練習時の捕手を2年生が行ってもよい。その際、ユニフォームを着用するが、背番号はつけない。

12. 式典：◆閉会式

① 開式のことば（アナウンス）

② 成績発表（ ）

③ 賞状授与（ ）

④ 閉式のことば（アナウンス）